

JIS

マグネシウム合金棒及び線

JIS H 4203 : 2025

(JMA/JSA)

令和 7 年 2 月 20 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	松 橋 隆 治	東京大学
(委員)	安 部 泉	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	江 坂 行 弘	一般社団法人日本自動車工業会
	大 瀧 雅 寛	お茶の水女子大学
	片 山 英 樹	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	倉 片 憲 治	早稲田大学
	越 川 哲 哉	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	是 永 敦	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	椎 名 武 夫	千葉大学
	寺 家 克 昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	清 水 孝太郎	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	清 家 剛	東京大学
	高 津 章 子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	高 辻 利 之	一般社団法人日本計量機器工業連合会
	田 辺 新 一	早稲田大学
	田 淵 一 浩	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	水 流 聡 子	東京大学
	中 川 梓	一般財団法人日本規格協会
	久 田 真	東北大学
	廣 瀬 道 雄	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	星 川 安 之	公益財団法人共用品推進機構
	細 谷 恵	主婦連合会
	村 垣 善 浩	神戸大学
	山 内 正 剛	国立大学法人信州大学
	山 田 陽 滋	豊田工業高等専門学校

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 39.3.1 改正：令和 7.2.20

官 報 掲 載 日：令和 7.2.20

原 案 作 成 者：一般社団法人日本マグネシウム協会

(〒104-0031 東京都中央区京橋 3-5-3 竹河岸ビル TEL 03-3538-1280)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-11-28 三田 Avanti TEL 050-1742-6017)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 松橋 隆治)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省イノベーション・環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 種類及びその記号	2
5 品質	5
5.1 外観	5
5.2 化学成分	5
5.3 機械的性質	8
6 寸法及びその許容差並びに形状	11
6.1 棒	11
6.2 線	12
7 試験	13
7.1 分析試験	13
7.2 引張試験	13
8 検査	13
9 表示	13
附属書 JA（参考）棒及び線の熱処理条件	15
附属書 JB（参考）JIS と対応国際規格との対比表	16
解 説	18

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本マグネシウム協会（JMA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、JIS H 4203:2018 は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格に従うことは、次の者の有する特許権等の使用に該当するおそれがあるので、留意する。

特許番号	特許権の名称	所有者	有効期限
6425919 号	マグネシウム合金ワイヤ及びその製造方法	東邦金属株式会社 国立大学法人熊本大学	2034 年 6 月 3 日

上記の特許権等の権利者は、非差別的かつ合理的な条件でいかなる者に対しても当該特許権等の実施の許諾等をする意思のあることを表明している。ただし、この規格に関連する他の特許権等の権利者に対しては、同様の条件でその実施が許諾されることを条件としている。

この規格に従うことが、必ずしも、特許権の無償公開を意味するものではないことに注意する必要がある。

この規格の一部が、上記に示す以外の特許権等に抵触する可能性がある。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権等に関わる確認について、責任はもたない。

なお、ここで“特許権等”とは、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権をいう。

マグネシウム合金棒及び線

Magnesium alloy bars and wires

序文

この規格は、2019 年に第 5 版として発行された ISO 3116 を基とし、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で、**附属書 JA** は対応国際規格にはない事項である。また、側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

1 適用範囲

この規格は、押出加工及び引拔加工によって製造したマグネシウム合金棒（以下、棒という。）及びマグネシウム合金線（以下、線という。）について規定する。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 3116:2019, Magnesium and magnesium alloys — Wrought magnesium and magnesium alloys (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1 に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS H 0001	アルミニウム、マグネシウム及びそれらの合金—質別記号
JIS H 0321	非鉄金属材料の検査通則
JIS H 1331	マグネシウム及びマグネシウム合金—分析用試料採取方法及び分析方法通則
JIS H 1332	マグネシウム及びマグネシウム合金中のアルミニウム定量方法
JIS H 1333	マグネシウム及びマグネシウム合金中の亜鉛定量方法
JIS H 1334	マグネシウム及びマグネシウム合金中のマンガン定量方法
JIS H 1335	マグネシウム及びマグネシウム合金中のけい素定量方法
JIS H 1336	マグネシウム及びマグネシウム合金中の銅定量方法
JIS H 1337	マグネシウム及びマグネシウム合金中のニッケル定量方法
JIS H 1338	マグネシウム及びマグネシウム合金中の鉄定量方法
JIS H 1340	マグネシウム合金中のジルコニウム定量方法
JIS H 1341	マグネシウム合金中のカルシウム定量方法